

2022（令和4）年度 パソコン実技試験問題（あらすじ）

テーマ「これからの未来をエネルギーから考える」

エネルギー政策研究所に所属している研究員の小林です。

今日は日本のエネルギーについて、前半は電気代高騰の原因、後半は再生可能エネルギーの話をしてします。会場の皆さんに、電気代、ガス代が高くなった、困ったという方がいるかを聞いてみると、ほぼ全員がうんうんとうなずいてくれました。

普段、家計簿もつけない、通帳も見ないような妹でも電気代が高いなと言っていました。

地球全体の平均気温が上がっているので、エアコンをつけないわけにはいかない。猛暑日が何日も続き、連日エアコンを使用するので電気代がかかるのは当たり前。

年中エアコンを使用しているため、家計を圧迫することになっています。

今日のテーマは、なぜ電気代が高騰したのか、その理由を知ってほしいということ。そのためには、日本のエネルギー事情について理解しておく必要があります。

ポイントになるのは日本のエネルギーの自給率です。皆さんになじみがあるのは食料自給率だと思いますが、エネルギーについても自給率という考え方があります。

日本のエネルギーの自給率は、経済産業省の資源エネルギー庁の資料によると、2019年度の統計では12.1%です。これは日本で消費するエネルギーの1割程度であり、逆に言えばエネルギーの約9割を海外から輸入しているわけです。

日本は、有限である化石燃料に頼っている状況です。

化石燃料依存度は東日本大震災以降、上昇傾向にあります。東日本大震災で原子力発電の安全神話が崩壊したためとも言われていますが、その結果として日本は海外からの化石燃料の輸入なしには成り立たない国になったわけです。

現在、世界的な動きとして太陽光や風力などのクリーンエネルギーが地球にやさしい新たなエネルギーとして積極的に普及が進められています。

けれども、現実的には、日本で使われるエネルギー全体を賄うには程遠いのが実情です。

また今年、電気代が急騰している要因には、ロシアによるウクライナの問題があります。この問題は直接的な被害だけでなく化石燃料などの確保や流通に大きな問題が出ており、全世界に大きな衝撃と影響を与えています。

普段何気なく使っているエネルギーというのは、実は世界と密接につながっているということなのです。世界のさまざまな動向、動きに影響を受けていることを知れば、電気の使い方に対する意識が少し変わるかもしれません。

ここで少し休憩をいただきます。後半は再生可能エネルギーをテーマにグループワークをします。再生可能エネルギーは、温室効果ガスを排出することはありませんし、日本国内で生産できることから、エネルギー安全保障にも寄与できる有望な日本のエネルギー源です。

この未来のエネルギーの現状と課題について、皆さんのご意見を伺って、一緒に考えるグループワーク形式で進行したいと思います。

円になって座っていただきますので、レイアウトの変更や換気も含めて10分間の休憩に入らせていただきます。机や椅子の移動にご協力をお願いします。

2022（令和4）年度 手書き実技試験問題（あらすじ）

テーマ「俳句と和歌」

講師の藤原です。普段は大学で国文学を教えています。今日は俳句、和歌のお話をします。

最近、芸能人が俳句を作る番組がありますが、皆さんの中でそれを見たことがある人、いらっしゃいますか？

この会場にはヒアリンググループという難聴者の聞こえを支援する設備があります。ご質問など発言時は、このマイクを使ってください。

この後、4階の第3会議室で2時30分から体験コーナーを設けます。体験希望の方はぜひ参加してください。先着15名です。

俳句は、17文字の中に季語を盛り込みいろんな工夫を凝らして作るものです。

季語は、いったいどの季節のものなのか、簡単にはわかりにくいものもあり、難しくてややこしい。

俳句は江戸時代あたりから発達してきました。江戸時代になって経済が徐々に発達していくなかで、生活に余裕が出てきた町民などがたしなむようになったからです。

ところで、俳句と似たものに、和歌があります。和歌は、31文字で作られています。

和歌は奈良時代から詠まれていました。平安時代になると和歌から物語へとさらに発達していきます。古典の時間に読んだ文学作品、例えば、土佐日記や伊勢物語、源氏物語など、和歌を含んだものがあつたと思います。

このように和歌が発達したのは、コミュニケーションのツールになっていたからです。

平安時代と現代ではコミュニケーションの方法が違います。当時は、和歌を通して好きな人に思いを伝える、という役割をもって詠まれることがありました。和歌のうまさ、恋人を選ぶ重要な基準になっていたのです。だから、和歌には恋の歌も多く残されています。俳句と同じように四季折々の変化を詠んだものも多くありますが、恋の歌の多さは俳句とは異なる点です。

和歌をたしなむのは貴族たちでした。教養のひとつとして長く継承されていきました。また、お坊さんも多くの和歌を残しています

ところで、皆さんにもなじみ深い和歌に、百人一首があります。学生時代に授業で暗唱させられた、カルタ大会があつた、という方もいると思います。

私には10歳違いの姉がいます。姉が高校生のとき、家族で百人一首のカルタとりを毎日しました。私は小学校の低学年でしたが、姉につきあってけっこう暗記していました。

百人一首の内訳は、男性79首、女性21首となっています。また、お坊さんの和歌が12首あります。43首が恋の歌となっていることから、和歌がコミュニケーションの重要なツールとして使われていたことを示しています。

俳句も和歌も文章としては、とても短いものですが、だからこそ人の心に残ることがあります。

最近の子どもは坊主めくりの経験もないようですが、ぜひ、親しんでほしいものです。

1093/2575 文字